

# ナシの新害虫ナシシンクイタマバエ(仮称*Resseliella* sp.)による被害症状

福島県農業総合センター果樹研究所  
平成17年度果樹試験場試験成績書  
平成18年度農業総合センター試験成績概要

## 1 部門名

果樹 - ナシ - 病害虫発生  
分類コード 04-03-22000000

## 2 担当者

佐々木正剛

## 3 要旨

ナシシンクイタマバエ(仮称)は、2003年8月に相双地方で初めて発見されて以来、2006年までの発生地域は相双地方と県中地方のナシほ場に限られ、発生面積も1ha程度であった。2006年には既発生地での発生量が増加すると共に、新たに、いわき地方でも発生が確認され、発生面積は約30ha(2006年10月現在)まで増加した。

- (1) 2006年6月にナシ被害果と樹皮下から採集した幼虫および成虫を同定依頼した結果、8月に*Resseliella*属のタマバエの一一種(ハエ目、タマバエ科)であることが判明した。
- (2) 本種幼虫に寄生された果実は症状が進むにつれ、心腐れ症を呈し、ていあ部から茶色の汁が流れ出る場合が多いが、「幸水」では外観から被害果を判別できない場合もある。
- (3) 本種による被害は、「幸水」と「新高」に集中しており、「豊水」での被害はきわめて少なかった。「幸水」と「新高」では、果実のがく筒が開孔するという特徴があり、成虫が果実内に産卵しやすいため、被害が集中すると考えられた。
- (4) 幼虫の寄生は果実だけでなく、樹皮下(6月)や二次伸長部位の先端芽(9月)などでも確認された。幼虫が芽に寄生すると、二次伸長部位は黒変し、その後枯死する。
- (5) 果実被害が多かったほ場では、10~12月のナシ粗皮下では、繭を形成した老熟幼虫が多数確認されたため、本種は粗皮下で幼虫越冬している可能性が高い。
- (6) 本種の詳細な生態は不明であり、また、有効な防除法も確立されていない。

## 4 その他の資料等

第51回日本応用動物昆虫学会講演要旨  
平成18年度病害虫発生予察特殊報第2号